

NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2010年11月17日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

	NUBIC管理番号: <input type="text" value="2007JP0037"/> 整理番号 <input type="text" value="11160"/> 担当者 <input type="text" value="峯崎 隆司"/>
表 題	<input type="text" value="長周期地震動に対応可能な高層構造物の制震部材および設計法"/>
技術分野	<input type="text" value="土木・建築"/>
適用製品	<input type="text" value="制震機器及び設計法"/>
目 的	<input type="text" value="最近、長周期地震動の発生予測が明確になるに従い、超高層構造物の制震補強の必要性が強調されている。これに対応できる方法は、コストを問題としなければ、もちろん存在するが、本方法は、回転慣性質量を利用したダイナミック・マスという概念を利用して、上部構造の質量も活用した経済効果の高い制震改修法あるいは新築の方法を提案したものである。"/>
技術概要	<input type="text" value="ダイナミック・マス(D.M.)という概念で設計された装置を利用することにより、例えば、高層構造物の最上層から1/4程度までの層に、1層あたり数基の装置を設置することにより、BMD (Building Mass Damper)機構を構成して、地震及び台風に対しての揺れを従来に比較して1/2に低減することが可能となる。これはD.M.の設計が、装置本体の質量の1000倍程度に増幅することが容易に可能になったからである。これにより、構造物の各階の質量は、一旦設計すれば、その調整は不可能であるという常識を覆して、振動論的に制御可能という新技術が開発できた。このことは、構造物の振動の様子を技術者が、自由に調整できることを意味しており、前述のBMDはその1例である。"/>

技術移転等をご希望の場合は、下記事項をご記入の上、本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いずれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

面談希望日時	<input type="text"/>		
(ふりがな) 氏 名	<input type="text"/>		
会社名	<input type="text"/>		
所 属	<input type="text"/>	役職	<input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/>	FAX番号	<input type="text"/>
E-mail	<input type="text"/>		
連絡事項	<input type="text"/>		



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328 E-mail:nubic@nihon-u.ac.jp